

## 五巻本『庸言知旨』校注 (1)

竹越 孝

### 前 言

本稿は、清代に成立した満漢合璧（並置対訳）形式の満洲語教材『庸言知旨』（an i gisun de amtan be sara bithe）を対象として、現存の諸本を校合するとともに、満洲文字のローマ字転写に逐語訳を付し、あわせて漢字の部分の翻字したテキストである。

『庸言知旨』は清の宗室宜興（ihing；字は桂圃、1747-1809）の著、序文末尾の記載によれば、その成立は嘉慶 7 年（1802）である。書名が示す通り、日常の言葉（庸言；an i gisun）の中に満洲旗人としての生き方の要諦（旨；amtan）を知るという趣向の書物であり、基本的には独白体で各種の人生訓や処世訓が記されている。

これまで、本書に関する研究は主に全二巻の刊本に基づいて進められてきた。現存する刊本のほとんどは、嘉慶 24 年（1819）に査清阿（jacingga）が刊刻したものを民国年間に歴史学者謝国楨（1901-1982）が印行させたテキストであると考えられる<sup>1</sup>。同本に基づき、日本では寺村政男（1994）及び同（2009-2012）がその一部についてローマ字転写と訳注を発表したほか、中国において近時刊行された王磊・劉雲（2018）では、北京大学図書館蔵刊本の影印をも含む形で全書の転写・翻刻を発表している。

このたび校注を公にするのは、刊本よりも原初の姿を伝えられる五巻の鈔本である。同本は大阪大学総合図書館蔵（渡部薫太郎氏旧蔵本、蔵書番号 Mn-390-16）、五巻五冊、冊大 23.8×16.5cm。毎半葉 10 行の罫紙に満漢各 5 行を墨書し、半葉の匡郭は 18.5×14.3cm。版心は白口、上黒魚尾、魚

---

<sup>1</sup> 民国間印本の封面には「庸言知旨」の左に「謝国楨敬題」とある。天理大学附属天理図書館蔵刊本（829.44-タ 93）には扉に「本書は民国 30 年前後の頃（大戦中）謝国楨が北京にて旧版木によりて上梓せるものなり、北京隆福寺文奎堂にて發賣（今西記）」（引用者注：「今西」は今西春秋氏と思われる）との記載があり、出版の経緯を物語っている。

尾の上に「庸言知旨」、下に巻数（漢字）と章数（満漢字）、丸印を挟んで章ごとの葉数。同本は渡部（1932：4）に著録されている。

現存の鈔本としてはさらに一種、王磊・劉雲（2018）において「辛卯本」と称される中国・中央民族大学図書館所蔵の四巻本がある。同本の巻一末尾には「光緒十七年八月鑲白旗滿洲二甲印房委筆貼式桂當阿恭錄奉送」との記載があり、これが光緒17年（1891）の鈔写にかかることを示している<sup>2</sup>。

以上の鈔本二種と刊本の巻・章・条を対照させると以下ようになる。

表 『庸言知旨』諸版本の対照

五巻本（鈔本）			四巻本（鈔本）			二巻本（刊本）		
巻	章	条（通番号）	巻	章	条（通番号）	巻	章	条（通番号）
一	一	14 (1-14)	一	一	14 (1-14)	一	一	14 (1-14)
	二	22 (15-36)		二	22 (15-36)		二	22 (15-36)
	三	23 (37-59)*		三	22 (37-58)		三	22 (37-58)
	四	22 (60-81)		四	22 (59-80)		四	22 (59-80)
二	五	22 (82-103)	二	五	22 (81-102)	一	——	
	六	20 (104-123)		六	20 (103-122)			
	七	21 (124-144)		七	21 (123-143)			
	八	19 (145-163)		八	19 (144-162)			
三	九	20 (164-183)	三	九	20 (163-182)	二	五	20 (81-100)
	十	20 (184-203)		十	20 (183-202)		六	16 (101-116)**
	十一	21 (204-224)		十一	21 (203-223)		七	21 (117-137)
	十二	20 (225-244)		十二	20 (224-243)		八	24 (138-161)
四	十三	20 (245-264)	四	十三	20 (244-263)	二	九	20 (162-181)
	十四	19 (265-283)		十四	19 (264-282)		十	19 (182-200)
	十五	20 (284-303)		十五	21 (283-303)		十一	20 (201-220)
	十六	22 (304-325)		十六	22 (304-325)		十二	22 (221-242)
五	清語元音			——			——	

\* 五巻本の第59条は四巻本第十五章の第290条にあたり、二巻本ではこれを欠く。

\*\* 五巻本・四巻本の末尾4条分は二巻本第八章の第158-161条にあたる。

<sup>2</sup> 同本は黄潤華・屈六生（1991：30）に著録され、「光緒十七年（1891）抄本；満漢合璧；四巻四冊；22×11.5cm」と記されている。

上表によると、五卷本及び四卷本の巻二にあたる部分を刊本では欠いており、また五卷本巻五の「清語元音」は四卷本及び刊本に存在しない。全体としての条の総数は、五卷本・四卷本が 325 条であるのに対し、刊本では 242 条となる。著者宜興が序において「凡三百餘則編為一帙」と言い、「以清語元音一卷附而綴之」と記す以上、五卷本が最も『庸言知旨』の本来の姿に近いことは明らかである。二種の鈔本における序文末尾の記載が「嘉慶歲次壬戌仲春宗室桂圃宜興序」であるのに対し、刊本にはそれに加えて「嘉慶歲次己卯初夏芸圃查清阿刊訂」とあり、查清阿の行った「訂」とは全体の簡略化と二巻への再編成であったことが推定される。

王磊・劉雲（2018）の刊行によって『庸言知旨』利用の便は飛躍的に高まったが、同書に基づく満洲語及び清代北京語の研究は、原本に最も近い形のテキストによって進められることが望ましいのは言うまでもない。今後の研究の基礎を形作ることを目的として、この校注テキストを公開する。

## 凡 例

- ・ 本稿は、五卷本『庸言知旨』の満洲文字をローマ字に転写するとともに、日本語で逐語訳を付し、あわせて対訳の中国語を翻刻したものである。
- ・ 使用するテキストは以下の通りである。カッコ内は略称：
  - (a) 大阪大学総合図書館蔵鈔本・五卷五冊〔五卷本〕
  - (b) 清嘉慶 24 年 (1819) 刊民国間印本・二卷二冊〔刊本〕
  - (c) 中央民族大学図書館蔵光緒 17 年 (1891) 鈔本・四卷四冊〔辛卯本〕
- ・ 以下では五卷本を底本とし、刊本及び辛卯本との異同を注記する。辛卯本では朱筆あるいは紙の貼付により原本の誤字脱字に対して訂正を加えており、本稿では訂正後のテキストに従う。
- ・ 中国語文のまとまり及び満洲語文の句点（これを「。」で表す）ごとに改行する。両者がずれる場合は中国語文のまとまりを優先する。
- ・ 冒頭に「章番号—条番号—句番号」を掲げ（章番号において序は 0、目録は 0 番台をもって表す）、満洲語文のローマ字転写、満洲語文の逐語訳、中国語文の翻字の順に示す。中国語文末尾の（ ）内にはその部分の出処を「巻／章・葉・表裏・行」の順で記す。
- ・ 満洲文字の転写は Möllendorff (1892) の方式による。
- ・ 漢字は原則として原文のままの字体を用いるが、一部の異体字・俗字は通用の字体に改めた。

序

0 an i gisun de amtan be sara bithei<sup>1</sup> šutucin.

日常の言葉に旨を知る書の序

庸言知旨序（一/序 1a1）

0-1 gurun i gisun serengge.

国の言葉というもの

國語者（一/序 1a2）

0-2 musei ba i gisun.

我々の地の言葉

吾輩方言（一/序 1a2）

0-3 abka ci salgabuha mudan kai.

天から与えられた音だぞ

本天籟也（一/序 1a2）

0-4 musei nenehe jalan be kimcici.

我々に先じた世代を調べれば

溯我先輩（一/序 1a2-3）

0-5 ajigan fonde teni dudu dada ome muteme.

小さい時にやっと喃語することできて

幼甫能言（一/序 1a3）

0-6 terei tacirengge. uthai gurun i gisun.

彼の学ぶもの即ち国の言葉

即習國語（一/序 1a4-5）

0-7 angga de ere waka oci gisureme muterakū.

口でこれ違うならば話すことできない

口非是无以言（一/序 1a5）

0-8 šan de ere waka oci. donjime muterakū.

耳でこれ違うならば聞くことできない

耳非是无以聴（一/序 1a5-1b1）

0-9 nikan gisun bisire be oron sarkū ofi.

漢言葉であるものを全く知らないので

不復知有華言（一/序 1b1-2）

0-10 tuttu angga ci tucikengge.

そこで口から出たもの

---

<sup>1</sup> bithei : 刊本は bithe i に分綴する。

- 故矢諸口也 (一/序 1b2)
- 0-11 ini cisui ureshūn emu ombi.  
自 然と 熟練した 一つ になる  
自然精純 (一/序 1b2)
- 0-12 heni hacihiyara tacibure be baiburakū bihe.  
少しも 急いて 学ばせるの を 必要とせず いた  
不須乎督課也 (一/序 1b2-3)
- 0-13 amala fukjin doro neifi gemun hecen de dosika ci.  
その後 創始 体制 始まり 都 城 に 入って から  
泊夫定鼎入都 (一/序 1b3-4)
- 0-14 juwe tanggū aniya hamika.  
二 百 年 近づいた  
垂二百年 (一/序 1b4)
- 0-15 hecen i dorgi tehe urse i hacingga nikan gisun i fumereme curgindure  
城 の 中に 住んだ 人達 が 各種の 漢 語 で 入り乱れ 騒ぎ立てる  
jakade.  
ために  
居是邦者雜以夷夏方言 (一/序 1b5-2a1)
- 0-16 gemu nikarama taciha.  
みな 漢語を話し 慣れた  
多習漢俗 (一/序 2a1)
- 0-17 ajigan de manju gisun be fonjici.  
幼児 に 満洲 語 を 問えば  
幼而叩清語 (一/序 2a1)
- 0-18 beliyekesaka.  
呆けている  
懵如也 (一/序 2a1)
- 0-19 mutufi tacire de.  
成長して 学んだ 時  
長而習焉 (一/序 2a2)
- 0-20 uthai manju bithe de teile akdahabi.  
即ち 満洲 書物 に のみ 頼っている  
惟清書之是頼 (一/序 2a2)
- 0-21 damu fonjire jabure ba i gisun be tacikini sembime.  
ただ 聞いて 答える 所 の 言葉 を 学べば良い と思いながら

- 夫欲從事於方言問對（一/序 2a2-3）
- 0-22 nikan gisun de acabume ubaliyambuha manju bithe i tacibuci.  
漢語に合せて 翻訳した 満洲書物で 教えれば  
而授以附會漢語之清書（一/序 2a3-4）
- 0-23 uthai cu gurun i niyalma de ci gurun i leolen gisuren be<sup>2</sup> hūlabume.  
即ち 楚 国 の 人 に 齊 国 の 論 語 を 読ませ  
不猶課楚人以齊論（一/序 2a4-5）
- 0-24 ci gurun i gisun be bahanakini sere adali be dahame.  
齊 国 の 言葉 を できれば良い と思う 様 であるから  
而欲其齊語（一/序 2a5）
- 0-25 yala yala mangga wakao.  
誠 に 難しく ないか  
得毋戛戛其難乎（一/序 2a5-2b1）
- 0-26 ede gisun i meyen be ejeme niyeleme.  
そのため 言葉 の 条 を 覚えて 読み  
然則非話條之佔<sup>3</sup>畢（一/序 2b1）
- 0-27 angga šan be girkūfi urebume gamarakū oci.  
口 耳 を 專一にし 熟練させ 従事しない ならば  
口耳之專攻（一/序 2b1-2）
- 0-28 amtan jorin ulhirakū toktoho be saci ombikai.  
趣旨 指示 悟らない 確實 を 知ること できるぞ  
罔知其旨趣也審矣（一/序 2b2）
- 0-29 šanyan bonio aniya.  
庚 申 年  
歲<sup>4</sup>庚申（一/序 2b3）
- 0-30 bi bar kul i tušan de bifi.  
私 バル クル の 職務 に いて  
予任巴里坤（一/序 2b3）
- 0-31 baita alban komso ofi.  
仕事 公務 少ない ので  
政務多暇（一/序 2b3）

<sup>2</sup> gisuren be : 五卷本は be gisuren に作る。

<sup>3</sup> 佔 : 辛卯本は「占」に作る。

<sup>4</sup> 歳 : 刊本はこの一字を欠く。

- 0-32 fe asaraha bithe be baicame tuwaci.  
昔 取っておいた 書物 を 調べて 見ると  
撿舊篋中 (一/序 2b4)
- 0-33 mini juse i<sup>5</sup> fonde sakdase<sup>6</sup> unggata de dacilame fonjiha.  
私の 子供 の 時に 老人達 先輩達 に 聞いて 尋ねたこと  
童時之所諮詢於耆老 (一/序 2b4-5)
- 0-34 jai dergi goloi tušan de.  
また 東 省の 職務 で  
與夫承乏東省 (一/序 2b5)
- 0-35 da susu i niyalmai angga sencehe ci fujurulame gaiha.  
故 郷 の 人の 饒 舌 から 聞き出し 取ったもの  
採諸故郷人之口頰者 (一/序 2b5-3a1)
- 0-36 buyaramé afaha kejine iktakabi.  
細々と 紙片 沢山 積んでいる  
片楮之積以<sup>7</sup>若干 (一/序 3a1)
- 0-37 erebe aika garu turu samsibure waliyabure oci.  
これを もしも すば やく 散逸させ 捨てさせる ならば  
計此而任其凋零散佚 (一/序 3a2)
- 0-38 coko i ebci sehe nasacun de isinarahū seme.  
鶏 の 肋 といった 嘆き に 至らないか と  
恐貽鶏肋之惜 (一/序 3a2-3)
- 0-39 tereci kimcime yargiyalame.  
そこで 調べて 明らかにし  
爰加考酌 (一/序 3a3)
- 0-40 juwan ubu i dorgi juwe ilan ubu be acamjame šošofi.  
十 分 の 内 二 三 分 を 集めて まとめ  
什摭其二三 (一/序 3a3-4)
- 0-41 fiyelen meyen faksalame arafi.  
章 条 分けて 作り  
分次條縷 (一/序 3a4-5)

---

<sup>5</sup> i : 辛卯本はこの一語を欠く。

<sup>6</sup> sakdase : 刊本は sakdasa に作る。

<sup>7</sup> 以 : 刊本はこの一字を欠く。

- 0-42 uheri ilan tanggū funcere meyen emu yohi obume banjibuhabi.  
全部で 三 百 余り 条 一 部 として 編んでいる  
凡三百餘則編為一帙（一/序 3a5）
- 0-43 geli gūnici. ne bisire manju gisun i meyen i dorgi.  
また 思うに 今 ある 満洲 語 の 条 の 内  
惟是當世話條（一/序 3b1）
- 0-44 sain be gaiha seme wajirakū bikai.  
美 を 取った としても 終わらず にいるぞ  
美不勝收（一/序 3b1-2）
- 0-45 mentuhun albatu be bodorakū.  
愚昧 粗野 を 考えず  
不揣固陋（一/序 3b2）
- 0-46 geli ere bithe arahangge.  
また この 書物 作ったもの  
復為此者（一/序 3b2-3）
- 0-47 gelhun akū weihede be nicuhei dolo baraburengge waka.  
敢え て 瓦片 を 真珠の 中に 混ぜるもの でない  
非敢標瓦礫於珠林（一/序 3b3）
- 0-48 ineku uncehen i sirabure. jibca adara balame<sup>8</sup>.  
本来の 尾 で 継ぎ足し 皮衣 縫う けれども  
祇以續尾成裘（一/序 3b4）
- 0-49 ememu majige niyececun bisire ai boljon sere turgun.  
或る 少しの 裨益 ある かも 知れない と思う ため  
不無小補（一/序 3b4-5）
- 0-50 erei dorgi sula gisun buyasi hergen.  
この 中の 空虚な 言葉 僅かな 文字  
就中片言贅語（一/序 3b5）
- 0-51 manggai angga šan de šufame gaiha ujan šala bicibe.  
ただ 口 耳 に 集め 取った 裁ち 屑 だけれども  
無非口耳所得之緒餘（一/序 4a1）
- 0-52 hono susu gašan i sulaha urgen tutabuha amtan.  
なお 郷 里 の 残った 調子 宿した 旨  
而於梓里之故旨遺音（一/序 4a1-2）

---

<sup>8</sup> balame : 刊本は balama に作る。



- 0-53 ser seme baktaka gese ofi.  
細々と 入った 様 なので  
庶幾芥納之似焉 (一/序 4a2-3)
- 0-54 tuttu an i gisun de amtan be sara bithe seme gebulehe.  
そこで 日常 の 言葉 に 旨 を 知る 書 と 名付けた  
因以庸言知<sup>9</sup>旨名之 (一/序 4a3-4)
- 0-55 jai manjurara kooli de.  
また 満洲語を話す 規則 に  
至若<sup>10</sup>清語成章 (一/序 4a4)
- 0-56 toktoho gisun i songkoi gisurerengge bi.  
決まった 言葉 に 従って 話すもの ある  
有遵原句而言者 (一/序 4a4)
- 0-57 mudan be halame gisurerengge inu bi.  
音 を 変えて 話すもの も ある  
亦有變音而言者 (一/序 4a5)
- 0-58 hergen nonggifi gisurerengge bi.  
文字 加えて 話すもの ある  
有益字而言者 (一/序 4a5)
- 0-59 hergen<sup>11</sup> ekiyembufi gisurerengge inu bi.  
文字 減らして 話すもの も ある  
復有汰字而言者 (一/序 4a5-4b1)
- 0-60 urunakū uttu songkolome manjurame geneci.  
必ず この様に 真似て 満洲語を話して 行けば  
必循是以往 (一/序 4b1)
- 0-61 teni fe urgen be ufararakū.  
やっと 昔の 調子 を 失くさない  
而後旨不失<sup>12</sup>其朔 (一/序 4b2)
- 0-62 mudan ongton akū. tomorhon oci ombi.  
音 鈍く なく 明晰 になること できる  
音不涉於俚而協矩矣 (一/序 4b2-3)

---

<sup>9</sup> 知：辛卯本は「之」に作る。

<sup>10</sup> 若：辛卯本はこの後に「滿」を有する。

<sup>11</sup> hergen：辛卯本はこの後にiを有する。

<sup>12</sup> 失：五卷本は「是」に作る。

- 0-63 uttu ofi. gisun de kemun bahakini.  
 そう なので 言葉 に 規則 得ればよい  
 故詞也蘄合於規（一/序 4b3）
- 0-64 mudan de getuken lali okini seme.  
 音 に 正確 機敏 になればよい と  
 音也欲明且捷（一/序 4b3-4）
- 0-65 manjurara fe urgen i bithe emu debtelin be kamcibume dosimbuhabi.  
 満洲語を話す 昔の 調子 の 書 一 卷 を 合わせて 入れている  
 以清語元音一卷附而綴之（一/序 4b4-5）
- 0-66 bahaci. den genggiyen agusa.  
 できれば 高く 聡明な 貴兄達  
 幸高明諸子（一/序 4b5）
- 0-67 fusihūn i dabašakū albatu be baktambufi.  
 私め の 僭越な 粗野 を 許し  
 諒鄙人之僭陋（一/序 4b5-5a1）
- 0-68 acanahakū akūmbuhakū tašaraha babe tuwancihiyame dasarao.  
 適さず 尽くさず 誤った 所を 正して 改めてくれ  
 即其舛謬不周者釐正之焉（一/序 5a1-2）
- 0-69 šahūrun halhūn be emgeri šurdeme hetufi.  
 寒さ 暑さ を 既に 巡り 過ぎて  
 越寒暑（一/序 5a2）
- 0-70 isamjame arame šanggaha turgunde<sup>13</sup>.  
 集めて 作り 完成した ので  
 輯録<sup>14</sup>告蔵（一/序 5a2-3）
- 0-71 udu suse gisun arafi.  
 幾つか 粗末な 言葉 作り  
 用草数言（一/序 5a3）
- 0-72 uju de sindaha..  
 最初 に 置いた  
 弁於首云（一/序 5a3）
- 0-73 saicunga fengšen i sahaliyan indahūn aniya niyengniyeri dulimbai biyade  
 嘉 慶 の 壬 戌 年 春 中間の 月に

<sup>13</sup> turgunde : 刊本・辛卯本は be dahame に作る。

<sup>14</sup> 録 : 刊本は「成」に作る。

uksun gui pu ihing šutucin araha.

宗室 桂 圃 宜興 序 書いた

嘉慶歲次壬戌仲春宗室桂圃宜興序（一/序 5b1）<sup>15</sup>

---

<sup>15</sup> 刊本はこの後に「saicungga fengšen i sohon gūlmahūn aniya juwari ujui biyade jūn pu jacingga i folome toktobuha.. 嘉慶歲次己卯初夏芸圃查清阿刊訂」の記載がある。

## 目 録

- an i gisun de amtan be sara bithe. ujui debtelin.  
日常の言葉に旨を知る書 第一の巻  
庸言知旨 卷一 (一/目 1a1)
- 01 ujui fiyelen i šošohon.  
第一章の目録  
第一章目録 (一/目 1a2) <sup>1</sup>
- 01-1 manju gisun i musei beyede bisirengge.  
満洲語が我々の身体にあること  
満洲話在咱們身上 (一/目 1a3)
- 01-2 manju gisun sere baita.  
満洲語という事  
満洲話的事兒 (一/目 1a4)
- 01-3 musei manju dade gemu golmin šanyan alin.  
我々の満洲初めにみな長白山  
咱們満洲起初都在長白山 (一/目 1a5)
- 01-4 nomun de juwe hergen i gebui emteli ningge be daldarakū sehebi.  
經書に二文字の名の一つのものを避けないと言っていた  
經上説二名不偏諱 (一/目 1a6)
- 01-5 a e i giyan de.  
陽陰の理において  
陰陽的理 (一/目 1a7)
- 01-6 niyalma. gasha. gurgu. gemu aššara jaka sembi.  
人鳥獸みな動物という  
人與鳥獸都叫作動物 (一/目 1a8)
- 01-7 tondo serengge.  
忠義というもの  
忠啊 (一/目 1b1)
- 01-8 niyalmai sain jaka. jiramin gūnin be aliha manggi.  
人の良い物厚い心を受けた後  
受了人的好東西厚情 (一/目 1b2)
- 01-9 hiyoošun sere gisun.  
孝順という言葉

---

<sup>1</sup> 刊本・辛卯本は目録部分を欠く。

- 孝順的話 (一/目 1b3)
- 01-10 girutu sere hergen.  
羞恥 という 文字  
羞恥的の字 (一/目 1b4)
- 01-11 yaya emu jergi wesike.  
凡そ 一 等級 昇った  
凡陞一等 (一/目 1b5)
- 01-12 alban kara niyalma de ilan oyonggo bi.  
公務 当たる 人 に 三つ 重要なもの ある  
當差的人有三要 (一/目 1b6)
- 01-13 sakdasa muse be jusei fonci hūwašabume ujire de.  
老人達 我々 を 子供の 時から 育て 養う 時  
老家們從小兒撫養咱們的時候 (一/目 1b7)
- 01-14 yaha dambaku. oforo dambaku. nure. niyaniyun i jergi jaka be.  
炭火 煙草 鼻 煙草 黃酒 檳榔 の 類の 物 を  
漠烟鼻烟酒檳榔等物 (一/目 1b8)
- 02 jai fiyelen i šošohon.  
第二 章 の 目録  
第二章目録 (一/目 2a1)
- 02-1 bithe hūlara be niyelembi sembi.  
書 読むこと を 読む という  
讀書叫作念 (一/目 2a2)
- 02-2 aika yasa gūwa jaka be šame.  
もしも 眼 別の 物 を 見て  
若是眼瞧着別的東西 (一/目 2a3)
- 02-3 sini gala de aibe jafašame bi.  
君の 手 に 何を 持っている  
你手裡拿着甚麼吃<sup>2</sup> (一/目 2a4)
- 02-4 bithede urunakū gisun lakcan be getukeleme.  
書で 必ず 言葉 区切り を 明らかにし  
書上把句讀要清楚 (一/目 2a5)
- 02-5 inenggidari simbe fulu udunggeri hūla hūla seme.  
毎日 君に 余りに 幾度も 読め 読め と

<sup>2</sup> 吃：本文は「呢」に作る。

- 毎日叫你多念幾遍多念幾遍（一/目 2a6）  
 02-6 uttu bubu baba šejilehe be.  
 この様に どもり どもり 暗唱するの を  
 這們啍啍吧吧的背（一/目 2a7）
- 02-7 sini kicen i hacin be.  
 君の 努力 の 類 を  
 把你的工課（一/目 2a8）
- 02-8 sinde dere de tacibuha teile akū.  
 君に 顔 で 教えた だけ でなく  
 不但當面教導了你（一/目 2a9）
- 02-9 cananggi ini bithe be šejilebuci.  
 先日 彼の 書 を 暗唱させると  
 前者背と 他的書看（一/目 2b1）
- 02-10 ubaliyambure kooli.  
 翻譯する 規則  
 繙譯的規矩（一/目 2b2）
- 02-11 muse damu unenggi gūnin be akūmbume.  
 我々 ただ 本当に 心 を 尽くして  
 咱們但盡實心（一/目 2b3）
- 02-12 tacime bahanara niyalma.  
 学ぶこと できる 人  
 會學的人（一/目 2b4）
- 02-13 mini yasa ere ucuri baibi wenjemeliyan i heyeneme.  
 私の 眼 この 頃 ただ やや熱っぽ く 目ヤニが出て  
 我的眼睛這一程子只是熱都と 的長眇模糊（一/目 2b5）
- 02-14 sini hūlaha bithe. meyen banjinarakū oho.  
 君の 読んだ 書 段落 できなく なった  
 你念的書不成段了（一/目 2b6）
- 02-15 musei manju gisun.  
 我々の 満洲 語  
 咱們的滿洲話（一/目 2b7）
- 02-16 manju gisun i hūsun bisire hergen de.  
 満洲 語 の 力 ある 文字 に  
 清文的有力字上（一/目 2b8）

- 02-17 geli ha he ho be.  
また ha he ho を  
又哈喝和 (一/目 2b9)
- 02-18 manjuraki seci.  
満洲語を話したい と思うなら  
欲説満洲話 (一/目 2b10)
- 02-19 tere ujui coko ambula taciha šungkeri niyalma.  
彼 第 一の 大変 学んだ 教養ある 人  
他是個頭等頭博學的雅人 (一/目 3a1)
- 02-20 imbe hahai erdemu be kicebure jalin.  
彼に 男の 才芸 を 励ませる ため  
為教他學漢子的本式 (一/目 3a2)
- 02-21 šun biya i dulenderengge.  
太陽 月 の 通り過ぎること  
日月過去の (一/目 3a3)
- 02-22 gūnin bahakū. neibure unde.  
心 得ず 開かれ ないで  
沒得心心性沒開 (一/目 3a4)
- 03 ilaci fiyelen i šošohon.  
第 三 章 の 目録  
第三章目録 (一/目 3a5)
- 03-1 aigan i dulimba be tomortai goibuci.  
標的 の 真ん中 を 正しく 射れば  
正着了把子的中間 (一/目 3a6)
- 03-2 muse neneme getukeleme boljofi jai gabtaki.  
我々 まず 明確に 約束し また 射よう  
咱們先說明白了在<sup>3</sup>射 (一/目 3a7)
- 03-3 kooli de.  
規則 に  
規矩 (一/目 3b1)
- 03-4 ilire de meimeni beyede teisulebume ili.  
立つ 時 各々の 身体に 適応させ 立て  
站脚該當合着各自的身段站 (一/目 3b2)

---

<sup>3</sup> 在 : 本文は「再」に作る。

- 03-5      *yaya de fulu be temšeme kiyangdulame yabuci acambi.*  
 全てに 才能を 争い 威張って 行う べきだ  
 諸凡當争強好勝（一/目 3b3）
- 03-6      *i kob seme duici ursu goiha sehengge.*  
 彼 びたり と 第四層 当てた ということ  
 他說正着了四層（一/目 3b4）
- 03-7      *si serengge.*  
 君 というもの  
 你呢（一/目 3b5）
- 03-8      *musei niyalma tome ejelehe ton.*  
 我々 人 ごとに 占めた 数  
 咱們人各佔的地兒（一/目 3b6）
- 03-9      *enenggi majige edun su akū.*  
 今日 少しの そよ 風 ない  
 今日一点風絲兒沒有（一/目 3b7）
- 03-10      *muse yordoki.*  
 我々 鏑矢を射よう  
 咱們射飽頭罷（一/目 3b8）
- 03-11      *sini tere funggala.*  
 君の その 羽飾り  
 你的那枝翎子（一/目 3b9）
- 03-12      *niyamniyara de.*  
 馬上射する 時  
 射馬箭（一/目 3b10）
- 03-13      *morin sonjombi.*  
 馬 選ぶ  
 挑馬呢（一/目 4a1）
- 03-14      *niyalma daci celmeri yebken banjihabi.*  
 人 元から しなやか 聡明に 生きている  
 人原本生来的藐窕俏皮（一/目 4a2）
- 03-15      *aba yabure de.*  
 狩り 行く 時  
 圍走着（一/目 4a3）
- 03-16      *aba sarafi aname yabure de.*  
 狩り 展開して 順番に 行く 時



- 撒開圍挨着走着 (一/目 4a4)
- 03-17 si miyoocalara be taciki seci tetendere.  
君 銃を撃つの を 学びたい と思う 以上は  
你既要學打鎗 (一/目 4a5)
- 03-18 si mini gurgu geolehe be sabuhao.  
君 私が 獸 捉えたの を 見たか  
你見我湊牲口来着麼 (一/目 4a6)
- 03-19 bi sinde alara.  
私 君に 告げる  
我告訴你 (一/目 4a7)
- 03-20 ere emu poo.  
この 一 砲  
這一炮 (一/目 4a8)
- 03-21 tere bethe bukdaŋi miyoocalaha emu miyoocan sain.  
彼 脚 曲げて 撃った 一つの 銃 良い  
他跪着打的一鎗好 (一/目 4a9)
- 03-22 bi loho baitalame.  
私 腰刀 使って  
我使刀 (一/目 4a10)
- 03-23 weri juwe ergici sarbašame lekideme.  
他人 二 方から 手を挙げ 争い  
人家打兩下里扎巴舞手的鬬着 (一/目 4b1)
- 04 duici fiyelen i šošohon.  
第四 章 の 目録  
第四章目録 (一/目 4b2)
- 04-1 jurgan giyan be gaime yabuci.  
義 理 に 従って 行えば  
若按着道理行 (一/目 4b3)
- 04-2 haha serengge.  
男 というもの  
漢子家 (一/目 4b4)
- 04-3 ini hafan efulehe jalin.  
彼が 官 退いた ので  
因他的官壞了 (一/目 4b5)

- 04-4 i mini oho siraha ahūn bicibe.  
 彼 私が なった 継 兄 だけれども  
 他雖是我的重山哥と (一/目 4b6)
- 04-5 sini ere deocileme kundulere jiramin gūnin.  
 君の この 兄事し 敬う 厚い 心  
 你的這番盡弟道恭敬的厚意 (一/目 4b7)
- 04-6 sakda niyalma gala lasihime hendume.  
 老いた 人 手 振って 言うには  
 老人家揺着手兒説 (一/目 5a1)
- 04-7 si imbe tulgiyen be buyere babi sembio.  
 君 彼を 外 を 欲する 所がある と思うか  
 你說他有外務嗎 (一/目 5a2)
- 04-8 tere oron be daiselambio.  
 その 欠員 を 代行するか  
 署那個缺麼 (一/目 5a3)
- 04-9 dorolon largin oci. facuhūn ombi.  
 礼 煩瑣 ならば 乱れ になる  
 禮煩則亂 (一/目 5a4)
- 04-10 si imbe amba haha sembio.  
 君 彼を 大 男 と思うか  
 你打量他是個大漢子嗎 (一/目 5a5)
- 04-11 ede udu majige aisi bicibe.  
 これで 多 少 利益 あっても  
 這上頭雖有些利息 (一/目 5a6)
- 04-12 dangkan i fe ujin.  
 世僕 の 昔の 子供  
 傳代的老家生子兒 (一/目 5a7)
- 04-13 i fiyen dambuhakū.  
 彼女 白粉 加えなかった  
 他沒有擦粉 (一/目 5a8)
- 04-14 juwe sakda.  
 二人の 老人  
 二位老人家 (一/目 5a9)
- 04-15 jiduji sakdasa be amcabuha niyalma.  
 結局 老人達 に 追いついた 人

- 到底是赶上了老家兒們的人（一/目 5a10）
- 04-16 giljangga jiramin sengge niyalma i muru bi.  
許し 厚い 年長 人 の 様子 ある  
有怨道純厚像一個有年紀的樣兒（一/目 5b1）
- 04-17 juse de karaba. o šo sembi.  
子供達 に 親切 よし よし する  
孩子們上護犢子疼的些呼（一/目 5b2）
- 04-18 jekdun jalangga.  
貞淑で 節度ある  
貞節（一/目 5b3）
- 04-19 mengseku sindafi. uce yaksifi.  
暖簾 垂らし 戸 閉めて  
放着簾子関着門（一/目 5b4）
- 04-20 sakda taitai se wesihun oho bicibe.  
老いた 奥様 歳 上に なった とは言え  
老太太年紀雖高了（一/目 5b5）
- 04-21 hehe lalin bime mutengge.  
女 てきばき であって 有能  
女人爽利而且有本事（一/目 5b6）
- 04-22 haha eldengge.  
男 勢いある  
漢子家魁偉（一/目 5b7）

## 本 文

- an i gisun de amtan be sara bithe. ujui debtelin.  
日常の言葉に旨を知る書 第一の 卷  
庸言知旨 卷一 (一/一 1a1)
- 1 ujui fiyelen.  
第一の 章  
第一章<sup>1</sup> (一/一 1a2)
- 1-1-1 manju gisun i musei beyede<sup>2</sup> bisirengge.  
満洲 語 が 我々の 身体に あること  
滿洲話在咱們身上 (一/一 1a3)
- 1-1-2 uthai dergi solgo<sup>3</sup>.  
まるで 東の 朝鮮  
就像東方高麗 (一/一 1a3)
- 1-1-3 amargi oros.  
北の ロシア  
北方俄羅<sup>4</sup>斯 (一/一 1a3)
- 1-1-4 wargi hoise.  
西の 回回  
西方回子 (一/一 1a4)
- 1-1-5 julergi gorokin i meimeni ba i gisun i adali.  
南の 蛮夷 の 各々の 地 の 言葉 の 様  
南方蠻夷的各有土語一樣 (一/一 1a4)
- 1-1-6 duin ergi aiman. hono ceni ba i gisun be waliyarakū.  
四 方の 部族 なお 彼らの 地 の 言葉 を 失わず  
四夷尚且不失他們的土語 (一/一 1a4-5)
- 1-1-7 songko de songkoi gisurere bade.  
足跡 に 従い 話す のに  
照舊的說呢 (一/一 1a5-1b1)
- 1-1-8 muse ayan suwayan i manju ofi.  
我々 真正 貴重 な 満洲 なので

---

<sup>1</sup> 第一章：辛卯本は章の記述を欠く。刊本はこの漢訳を欠く。

<sup>2</sup> beyede：刊本は beye de に分綴する。

<sup>3</sup> solgo：刊本・辛卯本は solho に作る。

<sup>4</sup> 儼：刊本・辛卯本は「羅」に作る。

- 咱們尊と貴と的滿洲 (一/一 1b1)
- 1-1-9 elemangga beyei ba i gisun be ulhirakū.  
却って 自身の 地 の 言葉 を 分らず  
反到<sup>5</sup>不懂自己的土語 (一/一 1b1-2)
- 1-1-10 manjurarakū oci. uthai da sekiyen be onggoho kai.  
滿洲語を話さない ならば 即ち 根 源 を 忘れた ぞ  
不說滿洲話就是忘了根源了 (一/一 1b2)
- 1-1-11 adaramere dere fildahūn jilehun i fe doro be juse omosi de tacihiyambini..  
どうして 顔 露わに 恥じず に 昔の 道理 を 子達 孫達 に 教えるか  
可怎麼大慙皮腴着臉拿舊規矩教訓子孫呢<sup>6</sup> (一/一 1b2-3)
- 1-2-1 manju gisun sere baita. umai bithei erdemu coohai muten waka.  
滿洲 語 という 事 全く 文の 才能 武の 能力 でない  
滿洲話的事兒並非文才武藝 (一/一 1b4)
- 1-2-2 oilori tuwaci.  
表面的に 見れば  
據浮面看之 (一/一 1b4-5)
- 1-2-3 oyombure ba akū gese.  
急ぐ 所 ない 様  
好像不甚緊要<sup>7</sup> (一/一 1b5)
- 1-2-4 tuttu seme. wesihun jalan i manju seme banjifi.  
そうでは あるが 盛んな 世 の 滿洲 として 生まれ  
然而生為盛世滿洲 (一/一 1b5-2a1)
- 1-2-5 we cihanggai gisun be tacirakū. hele oki sembi.  
誰 望んで 言葉 を 学ばず 啞 になりたい と思う  
誰可<sup>8</sup>願意不學說話作啞吧呢 (一/一 2a1)
- 1-2-6 yasa šan de bakcilabuha baita be getukelere.  
眼 耳 に 向かい合わせた 事 を 明らかにする  
宣明耳目所觸之事 (一/一 2a1-2)
- 1-2-7 mujilen be tuwara temgetulerengge.  
心 を 見て 証しとすること

---

<sup>5</sup> 到：刊本・辛卯本は「倒」に作る。

<sup>6</sup> 呢：五卷本は「吃」に作る。

<sup>7</sup> 緊要：辛卯本は「要緊」に作る。

<sup>8</sup> 可：辛卯本は「肯」に作る。

- 見心印正<sup>9</sup> (一/一 2a2)
- 1-2-8 gemu gisun de akdahabi.  
みな 言葉 に 頼っている  
都靠着話呢 (一/一 2a2-3)
- 1-2-9 niyalma be acaha de<sup>10</sup>. gisureme bahanarakū.  
人 に 会った 時 話すこと できない  
若見了人不曾説話 (一/一 2a3)
- 1-2-10 damu angga gahū fiha oci.  
ただ 口 あん ぐり ならば  
竟只張口結舌的 (一/一 2a4)
- 1-2-11 geli giyan de banjinarakū.  
また 道理 に 進まない  
又於理上下不去 (一/一 2a4)
- 1-2-12 gūwa muse de daljakū.  
他人 我々 に 関係ない  
別人於<sup>11</sup>咱們無干 (一/一 2a4-5)
- 1-2-13 haji akū kai.  
親しく ない ぞ  
無親啊 (一/一 2a5)
- 1-2-14 terei temgetu akū gisun. albatu hergen be tacire anggala.  
彼の 証拠 ない 言葉 粗野な 文字 を 学ぶ よりは  
與其學他那宗無稽之言村<sup>12</sup>陋之字 (一/一 2a5-2b1)
- 1-2-15 mafari<sup>13</sup> i tutabuha gisun.  
祖先達 が 残した 言葉  
先人遺留之話 (一/一 2b1)
- 1-2-16 umai erse de isirakū.  
全く これら に 及ばない  
並非不及這些人 (一/一 2b1-2)

<sup>9</sup> 正：刊本・辛卯本は「証」に作る。

<sup>10</sup> acaha de：刊本は acahade に合綴する。

<sup>11</sup> 於：辛卯本は「與」に作る。

<sup>12</sup> 村：五卷本は「材」に作る。

<sup>13</sup> mafari：刊本は nenehe jalan に作る。

- 1-2-17 doronggo akū sere ba akū.  
道理に合わ ない という 所 ない  
不尊重啊 (一/一 2b2)
- 1-2-18 muse sakdasai anggai ergi kesi simen be tuwakiyara.  
我々 老人達の 口の 端 恩 沢 を 守る  
咱們守着老家兒口角的恩澤 (一/一 2b2-3)
- 1-2-19 mafari be alhūdara baita be kiceme yabure oci.  
祖先達 を 倣う 事 を 努め 行う ならば  
勉行法祖之事 (一/一 2b3-4)
- 1-2-20 inu fulehe be kicere emu doro dabala.  
また 根本 を 努める 一つの 道理 なだけだ  
也是個務本的道理罷咧 (一/一 2b4)
- 1-2-21 geli ai wajimbio.  
また 何 廢れるか  
廢了甚麼嗎 (一/一 2b4)
- 1-2-22 elemangga gūtubumbio.  
却って 辱めるか  
反到<sup>14</sup>玷辱了甚麼嗎 (一/一 2b5)
- 1-2-23 kimcici endereo..  
考えれば 欺くものか  
只細想就明白了 (一/一 2b5)
- 1-3-1 musei manju dade gemu golmin šanyan alin i šun dekdere. amargi ergi  
我々の 満洲 初めに みな 長 白 山 の 太陽 昇る 北の 方  
šurdeme bade banjimbihe.  
巡る 地に 暮らしていた  
咱們滿洲起初都在長白山<sup>15</sup>一帶居住 (一/一 3a1-2)
- 1-3-2 teisu teisu aiman<sup>16</sup> falga bifi.  
各 々 部族 一族 いて  
各有部落鄉黨 (一/一 3a2)
- 1-3-3 mukūn hala meimeni encu.  
族 姓 それぞれ 異なり

---

<sup>14</sup> 到：刊本・辛卯本は「倒」に作る。

<sup>15</sup> 山：刊本・辛卯本はこの後に「東北」を有する。

<sup>16</sup> aiman：辛卯本はこの後に i を有する。

- 族姓各異（一/一 3a2-3）
- 1-3-4 te bicibe. musei gurun i hala. aisin gioro sembi.  
今でも我々の国の姓愛新覺羅という  
即如咱們國朝之姓乃愛新覺羅（一/一 3a3-4）
- 1-3-5 ememungge joo hala seme tukiyehegge.  
ある者 趙 姓 と 称揚したこと  
或有稱為姓趙的（一/一 3a4）
- 1-3-6 tere ulhicun akū bigan i niyalma<sup>17</sup>.  
それ 理性 ない 野 の 人  
那是無知野人（一/一 3a5）
- 1-3-7 feme banjibuhangge.  
出まかせて 作ったもの  
胡撰と的（一/一 3a5）
- 1-3-8 duibuleci.  
比べるならば  
比起来（一/一 3a5）
- 1-3-9 uthai gūwalgiya halangga be guwan hala.  
即ち 瓜爾嘉 姓の者 を 関 姓  
就像稱呼瓜爾嘉<sup>18</sup>氏姓関（一/一 3a5-3b1）
- 1-3-10 niohuru halangga be lang hala seme tukiye adali.  
鈕祜祿 姓の者 を 郎 姓 と 称揚する 様  
鈕祜<sup>19</sup>祿氏姓郎的一様（一/一 3b1-2）
- 1-3-11 ele fiyokorohobi.  
益々 出鱈目を言っている  
尤其支離了（一/一 3b2）
- 1-3-12 uksun gioro serengge.  
宗室 覺羅 というもの  
至於宗室覺羅是（一/一 3b2-3）
- 1-3-13 gurun i fukjin fonde. uksun mukūn ilgame toktobure de.  
国 の 初め 時に 宗室 族 区別し 定める 時  
國初分定宗族時（一/一 3b3）

<sup>17</sup> niyalma : 刊本・辛卯本は niyalmai に作る。

<sup>18</sup> 嘉 : 辛卯本は「佳」に作る。

<sup>19</sup> 祜 : 刊本は「枯」に作る。



- 1-3-14 taidzu dergi hūwangdi i fisen.  
 太祖 高 皇帝 の 系統  
 以太祖高皇帝一脉 (一/一 3b3-4)
- 1-3-15 jai taidzu han i ahūn deo i gargan be.  
 また 太祖 皇帝 の 兄 弟 の 家系 を  
 與太祖皇帝兄弟支派 (一/一 3b4-5)
- 1-3-16 uksun.  
 宗室  
 定為宗室 (一/一 3b5)
- 1-3-17 taidzu han i amji eshen i enese be.  
 太祖 皇帝 の 伯父 叔父 の 子孫達 を  
 太祖皇帝伯叔後裔 (一/一 4a1)
- 1-3-18 gioro seme faksalame toktobuhabi.  
 覺羅 と 分けて 定めている  
 分為覺羅 (一/一 4a1)
- 1-3-19 tereci<sup>20</sup> geren manjusai hala aiman i gebu be.  
 それから 全ての 満洲達の 姓 部落 の 名前 を  
 其餘所有滿洲的姓氏部落名號 (一/一 4a1-2)
- 1-3-20 manju gisun i buleku bithei dorgi. manju sere gisun i fejergi suhe hergen de  
 満洲 語 の 鑑 書 の 中 で 満洲 という 言葉 の 下 で 解釈した 文字 に  
 muwašame gemu arahabi.  
 大まかに みな 書いている  
 於清文鑑中滿洲句下註内俱約畧載之呢 (一/一 4a2-3)
- 1-3-21 geli han i araha manjusai sekiyen eyen i kimcin i jergi ududu hacin  
 また 皇帝 の 書いた 満洲達の 源 流 の 考察 の 類の 多くの 種類  
 bithe bi. 八旗通志氏族通譜等  
 書物 ある  
 又有御製滿洲源流考<sup>21</sup>等類好幾種書 (一/一 4a4-5)
- 1-3-22 kimcime baicame gingguleme hargašaci.  
 考えて 調べて 敬い 仰ぎ見れば  
 只請細細校查恭誦 (一/一 4b1)

<sup>20</sup> tereci : 辛卯本は terei に作る。

<sup>21</sup> 考 : 辛卯本は「攷」に作る。

- 1-3-23 enderakū anan i ulhici ombikai.  
迷わず 順番 に 悟ること できるぞ  
自然可以挨次曉得 (一/一 4b1)
- 1-3-24 ongtori irgen i albatu gisun be akdaci oiorakū.  
鈍い 民衆 の 粗野な 言葉 を 信じては いけない  
不可信那蠢民的村話 (一/一 4b1-2)
- 1-3-25 fusihūn eyerahū..  
賤しく 流れないか  
子<sup>22</sup>細下流了啊<sup>23</sup> (一/一 4b2)
- 1-4-1 nomun de juwe hergen i gebui emteli ningge be daldarakū 見禮記 sehebi.  
經書 に 二 文字 の 名 の 一つの もの を 避けない と言っていた  
經上說二名不偏諱 (一/一 4b3)
- 1-4-2 muse gebu arara de. amai gebui ujui hergen be baitalaci oiorakūngge.  
我々 名前 作る 時 父の 名前の 最初の 文字 を 用いては いけないこと  
咱們起名子不許用父親名上頭一字 (一/一 4b3-4)
- 1-4-3 tere emu hergen be daldara jalin waka.  
その 一 文字 を 避ける ため でない  
非是為諱那一個字 (一/一 4b4-5)
- 1-4-4 nenehe aniya g'aodzung han i hesei ama jui i<sup>24</sup> gebui ujui hergen be  
先の 年 高宗 皇帝 の 勅旨で 父 子 の 名前の 最初の 文字 を  
jursulebume araci.  
重ねさせて 作ると  
當年奉有高宗皇帝諭旨父子的名字若並<sup>25</sup>用頭一個字 (一/一 4b5-5a1)
- 1-4-5 ahūn deo i adali ombi seme.  
兄 弟 の 様 になる と  
好像兄弟一樣 (一/一 5a1-2)
- 1-4-6 tereci ama jui i uju holbome hergen baitalara be fafulahabi..  
それから 父 子 の 最初 連ねて 文字 用いるの を 禁じている  
打那們禁止了父子同用頭一字了 (一/一 5a2-3)

<sup>22</sup> 子：辛卯本は「仔」に作る。

<sup>23</sup> 啊：辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>24</sup> i：辛卯本はこの一語を欠く。

<sup>25</sup> 並：辛卯本は「併」に作る。

- 1-5-1 a e i giyan de.  
陽 陰 の 理 において  
陰陽的理 (一/一 5a4)
- 1-5-2 niyalma tasha erinde banjimbi.  
人 寅 時に 生まれる  
人生于寅 (一/一 5a4)
- 1-5-3 ede yaya niyalma gemu tasha erinde ilici acambi.  
そこで 全ての 人 みな 寅 時に 起きる べきだ  
凡人都該<sup>26</sup>寅時起来 (一/一 5a4-5)
- 1-5-4 tuttu ofi. musei ejen tuweri juwari be bodorakū.  
そう なので 我々の 主 冬 夏 を 問わず  
所以咱們皇<sup>27</sup>上不論冬夏 (一/一 5a5-5b1)
- 1-5-5 inenggidari urunakū tasha erinde ilimbi.  
毎日 必ず 寅 時に 起きる  
毎日必定寅時起来 (一/一 5b1)
- 1-5-6 majige tefi.  
少し 座り  
畧坐一會兒 (一/一 5b2)
- 1-5-7 amsulafi muduri erin i ujui kemu de.  
食事を取り 辰 時 の 最初の 刻 に  
用了膳赶辰初 (一/一 5b3)
- 1-5-8 uthai baita icihiyambi.  
即ち 事 処理する  
就辦<sup>28</sup>事 (一/一 5b3)
- 1-5-9 ambasa be hūlame dosimbufi. hese wasimbumbi.  
大臣達 を 呼び 招き 勅旨 下す  
召見大人們下旨意 (一/一 5b3-5)
- 1-5-10 inenggidari emu songko.  
毎日 一つの 様子  
天天一樣 (一/一 5b5)

---

<sup>26</sup> 該：辛卯本はこの後に「當」を有する。

<sup>27</sup> 皇：刊本は「聖」に作る。

<sup>28</sup> 辦：辛卯本は「辨」に作る。

- 1-5-11 majige halara gūwaliyara hacin akū.  
 少しも 改めて 変える 種類 ない  
 沒有<sup>29</sup>一點兒<sup>30</sup>改變<sup>31</sup> (一/一 5b5)
- 1-5-12 ere teni abkai yabun kulu<sup>32</sup> 見易經 sehengge inu.  
 これ やっと 天の 行い 壮健 といったもの である  
 這纔叫<sup>33</sup>作天行健 (一/一 6a1)
- 1-5-13 yala enduringge han seci ombi..  
 誠に 聖なる 皇帝 ということ できる  
 真と稱得起聖君也 (一/一 6a1-2)
- 1-6-1 niyalma gasha. gurgu. gemu aššara jaka sembi.  
 人 鳥 獸 みな 動物 という  
 人與鳥獸都叫作動物 (一/一 6a3)
- 1-6-2 abka ci meimeni banin salgabufi adali banjihabi.  
 天 から それぞれ 性質 与えられた 様に 生まれている  
 天各賦性一樣生成 (一/一 6a3-4)
- 1-6-3 tuttu coko i tuktan hūlarangge.  
 そこで 鶏 の 初めて 鳴くこと  
 所以鶏初打鳴兒<sup>34</sup> (一/一 6a4)
- 1-6-4 urunakū tasha erinde.  
 必ず 寅 時に  
 必是寅時 (一/一 6a4-5)
- 1-6-5 turgun adarame seci.  
 原因 なぜか と言えば  
 什麼緣故呢 (一/一 6a5)
- 1-6-6 tere weihun jaka i aššame deribure erin ofi kai.  
 それ 生きた 物 が 動き 始める 時 だから だぞ  
 那是生靈起動的時候啊 (一/一 6a5-6b1)

<sup>29</sup> 有：刊本・辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>30</sup> 兒：辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>31</sup> 變：辛卯本は「悔」に作る。

<sup>32</sup> kulu：辛卯本は gulu に作る。

<sup>33</sup> 叫：辛卯本は「教」に作る。

<sup>34</sup> 兒：辛卯本はこの一字を欠く。

- 1-6-7 erebe tuwahade. yaya niyalma. gemu koko hūlame ilifi.  
これを 見た時 凡そ 人 みな 鶏 鳴くと 起きて  
這們看<sup>35</sup>起来凡人都該鶏鳴而起 (一/一 6b1)
- 1-6-8 sithūme sithūme sain be tacirakūci ombio..  
専心し 専心し 善 を 学ばずに いられるか  
孳と<sup>36</sup>學善了啊 (一/一 6b2)
- 1-7-1 tondo serengge.  
忠義 というもの  
忠啊 (一/一 6b3)
- 1-7-2 meimeni teisu de mujilen be emu obumbi sere be.  
それぞれ 本分 に 心 を 一つ にする という こと を  
説的は各等分位上一其心也 (一/一 6b3)
- 1-7-3 umai dacun jeyengge de funtume. senggileme afara. beyebe waliyatai  
決して 鋭利な 刃 に 突入し 血を流し 戦うこと 自身を 捨てたまま  
obufi.  
にして  
並非単説衝鋒血戦拚命 (一/一 6b4-5)
- 1-7-4 dain de gaibure be teile tondo be akūmbuha serengge waka.  
戦場 で 死ぬこと を のみ 忠義 を 尽くした というもの でない  
沒於疆場叫作盡忠啊 (一/一 6b5-7a1)
- 1-7-5 te bici. musei alban. gemu gurun i dasan i emu fiyentehe.  
例 えば 我々の 公務 みな 国 の 政治 の 一 分隊  
譬如咱們的差使都是國政一股兒 (一/一 7a1)
- 1-7-6 ede jabšaki be bodorakū.  
そこで 便宜 を 図らない  
這上頭不圖便宜 (一/一 7a1-2)
- 1-7-7 dergi hafan<sup>37</sup> be eitererakū.  
上の 役人 を 欺かない  
不欺上司 (一/一 7a2)
- 1-7-8 mujilen be teng seme jafafi.  
心 を 固 く 持って

---

<sup>35</sup> 看：五卷本は「着」に作る。

<sup>36</sup> と：刊本はこの後に「不」を有する。

<sup>37</sup> hafan：辛卯本は hafasa に作る。

- 把心拿個結實 (一/一 7a2-3)
- 1-7-9 baita be unenggileme icihiyafi.  
仕事 を 誠を尽くして 処理し  
認真辦事 (一/一 7a3)
- 1-7-10 amaga inenggi i durun alhūdan 註詳補彙 obuci ojongge.  
後の 日 の 手本 規範 とすること できるもの  
可為日後榜樣 (一/一 7a3-4)
- 1-7-11 uthai musei teisu de tondo be akūmbuha kai..  
即ち 我々の 本分 に 忠義 を 尽くした のだぞ  
就是咱們本分上盡忠了啊 (一/一 7a4)
- 1-8-1 niyalmai sain jaka. jiramin gūnin be aliha manggi.  
人の 良い 物 厚い 心 を 受けた 後  
受了人的好東西厚情 (一/一 7a5)
- 1-8-2 karu de karu ubu de ubu seme. urunakū karulara be kicere bade.  
報い に 報い 分 に 分 と 必ず 報いること に 努める のに  
尚且想着一盒兒<sup>38</sup>来一盒兒<sup>39</sup>去<sup>40</sup>必圖報答 (一/一 7a5-7b1)
- 1-8-3 ama eniye i<sup>41</sup> ajigen ci ulebume tebeliyeme.  
父 母 が 幼少 から 食べさせ 抱っこし  
何況父母自小喂着抱着 (一/一 7b1-2)
- 1-8-4 bagiyame kakame.  
抱えて 糞をし  
把着拉青屎 (一/一 7b2)
- 1-8-5 gosime hūwašabure de. jobome suilaha gosihon gūnin be ai hendure.  
慈しんで 養育するの に 難儀し 苦勞した 苦しい 心 を どう 言う  
疼愛養育之劬勞苦心呢 (一/一 7b2-3)
- 1-8-6 tere dade. musei beye ama eniyei<sup>42</sup> buhengge kai.  
その 上に 我々の 身体 父 母が 与えたもの だぞ  
而況且咱們的身子是父母給的呀<sup>43</sup> (一/一 7b3-4)

<sup>38</sup> 兒：刊本・辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>39</sup> 兒：刊本・辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>40</sup> 去：刊本・辛卯本はこの後に「的」を有する。

<sup>41</sup> eniye i：刊本・辛卯本は eniyei に合綴する。

<sup>42</sup> eniyei：刊本は eniye i に分綴する。

<sup>43</sup> 呀：辛卯本は「啊」に作る。

- 1-8-7 yaya baili.  
諸々の 恩  
凡一切恩情 (一/一 7b4)
- 1-8-8 ereci jiramin ujen ningge. geli bio.  
これより 厚く 重い もの また あるか  
還有厚重於這個的嗎 (一/一 7b4-5)
- 1-8-9 erebe gūnihade.  
これを 考えた時  
想起這個来 (一/一 7b5)
- 1-8-10 ai hacin i baili jafaki sehe seme.  
どの 様 な 恩 献じたい と思った としても  
不拘怎的<sup>44</sup>要報答<sup>45</sup> (一/一 7b5)
- 1-8-11 tumen de emgeri teherebume mutembio..  
万 に 一度 釣り合うこと できるか  
能稱得萬分之一麼 (一/一 7b5-8a1)
- 1-9-1 hiyoošun sere gisun.  
孝順 という 言葉  
孝順的話 (一/一 8a2)
- 1-9-2 jui oho niyalma i gūnin akūmbure debi.  
子 になった 人 が 心 尽くすこと にある  
在乎人子の盡心 (一/一 8a2)
- 1-9-3 umai encehen hūsun de akū.  
決して 才能 力 に ない  
並不在乎家當力量 (一/一 8a2-3)
- 1-9-4 udu muwa buda ulebume muke omibume uilecibe.  
いかに 粗末な 飯 食べさせ 水 飲ませて 仕えても  
雖蔬<sup>46</sup>食飲水の奉養 (一/一 8a3-4)
- 1-9-5 niyaman i serebure onggolo tosome gūnin akūmbume muteci.  
父母 が 気づく 前に 予め 心 尽くすこと できれば  
能體貼父母未發心以前盡心 (一/一 8a4)

---

<sup>44</sup> 的：刊本は「様」に作る。

<sup>45</sup> 答：刊本・辛卯本は「恩」に作る。

<sup>46</sup> 蔬：刊本・辛卯本は「疏」に作る。

- 1-9-6 uthai hiyoošungga sembi.  
即ち 孝順な者 という  
就是孝順了啊 (一/一 8a5)
- 1-9-7 tere gaji sehebe tuwame acaburengge.  
それ 持って来い と言ったのを 見て 合わせること  
那宗到了要纔應付的 (一/一 8a5)
- 1-9-8 eitereme elgiyen tumin i karulame alibuha seme.  
いくら 豊富 頻繁 に 報いて 献呈した としても  
憑其怎樣豊富呈献 (一/一 8a5-8b1)
- 1-9-9 nandabuhangge dabala.  
要求されたもの なだけだ  
乃張口要了後纔給了罷咧<sup>47</sup> (一/一 8b1)
- 1-9-10 ai dabufi gisurere babi..  
何 数えて 話す 所がある  
何足論呢 (一/一 8b1-2)
- 1-10-1 girutu sere hergen.  
羞恥 という 文字  
羞恥的 (一/一 8b3)
- 1-10-2 niyalma de holbobuhangge.  
人 に 関係したもの  
與人關係的 (一/一 8b3)
- 1-10-3 umesi ujen.  
とても 重い  
狠重 (一/一 8b3)
- 1-10-4 te bici. beyede gūnin akū i endebuku bifi.  
例 えば 自身に 心 ない の 誤り あって  
譬如本身有無心的過失 (一/一 8b3-4)
- 1-10-5 emu<sup>48</sup> cimari andande serefi.  
ある 朝 忽ち 気づいて  
一旦覺了 (一/一 8b4)
- 1-10-6 giruci. urunakū ilihai gaihari halambi.  
恥じれば 必ず すぐ 忽ち 改める

<sup>47</sup> 咧：刊本は「例」に作る。

<sup>48</sup> emu：辛卯本は emgeri に作る。



- 若害羞必定立刻猛然改之<sup>49</sup> (一/一 8b4-5)
- 1-10-7 aika gūwa niyalma i<sup>50</sup> yabun bengsen de isirakū ba bifi.  
 もしも 別 人 の 行い 才能 に 及ばない 所 あって  
 若有不及別人的品行本事之處 (一/一 8b5-9a1)
- 1-10-8 girume saci.  
 恥じて 知れば  
 若覺恥<sup>51</sup> (一/一 9a1)
- 1-10-9 urunakū mujilen sithūfi hūsun i ebsihe kiyangdulame kicembi.  
 必ず 心 専一にし 力 の 限り 強く 努める  
 必然専心盡力要強着用工 (一/一 9a1-2)
- 1-10-10 ere ini cisui banjinara buyenin giyan.  
 これ 自 然に 生まれる 情 理  
 這是自然情理 (一/一 9a2)
- 1-10-11 uttu ofi. damu girure be saci tetendere.  
 こう なので ただ 恥 を 知る 以上は  
 所以但知害羞<sup>52</sup> (一/一 9a2-3)
- 1-10-12 halara kicere de hūsutulerakūngge jai akū.  
 改め 努めるの に 力を尽くさないこと また ない  
 於改正勤勉上再沒有個不奮力的 (一/一 9a3)
- 1-10-13 niyalmai<sup>53</sup> beyebe tuwancihiyara duka serengge.  
 人の 身体を 修める 門 というもの  
 為人脩身門戸 (一/一 9a4)
- 1-10-14 erebe kai..  
 これを だぞ  
 是這個呀<sup>54</sup> (一/一 9a4)
- 1-11-1 yaya emu jergi wesike.  
 凡そ 一 等級 昇った  
 凡陞一等 (一/一 9a5)

---

<sup>49</sup> 之：刊本は「了」に作る。

<sup>50</sup> niyalma i：刊本・辛卯本は niyalmai に合綴する。

<sup>51</sup> 恥：刊本・辛卯本は「羞」に作る。

<sup>52</sup> 害羞：辛卯本は「羞愧」に作る。

<sup>53</sup> niyalmai：刊本は niyalma i に分綴する。

<sup>54</sup> 呀：辛卯本は「啊」に作る。

- 1-11-2 emu tangkan ibehengge.  
一 階級 進んだ人  
進歩的人 (一/一 9a5)
- 1-11-3 gemu beyei jobome kicehe faššan.  
みな 自身の 苦勞し 努めた 功績  
都是自己勤苦的巴結 (一/一 9a5-9b1)
- 1-11-4 baha manggi. alban de ele funturšeme<sup>55</sup> kiceme.  
得た 後で 公務 に 益々 熱心に 努め  
得了之後差使上更要勤勉 (一/一 9b1)
- 1-11-5 baita de ele unenggileme gūnin akūmbume faššaci acambi.  
仕事 に 益々 誠を尽くし 心 尽くして 努力する べきだ  
事情上更當認真竭盡心力 (一/一 9b1-2)
- 1-11-6 aika huwekiyefi kangtaršame arbušara.  
もしも 興奮し 傲慢に 振舞う  
倘若高了興狂大 (一/一 9b2-3)
- 1-11-7 eici weri i huwekiyen de dosifi. urkin be dahame sargašara oci.  
或いは 他人 の 興 に 入り 大声 に 従って 遊樂する ならば  
或随着人家一溜神祇<sup>56</sup>的遊蕩起来 (一/一 9b3-4)
- 1-11-8 tere uthai fengšen eterakū.  
それ 即ち 福 勝ち取らない  
那就是受福不壓支 (一/一 9b4)
- 1-11-9 jaka buya jalure ja serengge ai dabala..  
物 小さい 満ちるの 容易 ということ 何 nada だけだ  
器小易盈罷咧 (一/一 9b4-5)
- 1-12-1 alban kara niyalma de.  
公務 当たる 人 に  
當差的人 (一/一 10a1)
- 1-12-2 ilan oyonggo bi.  
三つ 重要なもの ある  
有三要 (一/一 10a1)
- 1-12-3 uju de dere.  
第一 に 顔

<sup>55</sup> funturšeme : 刊本は fafuršame に作る。

<sup>56</sup> 祇 : 辛卯本は「祇」に作る。

- 第一是顔面 (一/一 10a1)
- 1-12-4 *yaya dukserē girure baita be targaci acambi.*  
 凡そ 赤くなり 恥じる 事 を 戒める べきだ  
 凡羞恥的事兒當戒止 (一/一 10a1-2)
- 1-12-5 *jai de muten.*  
 第二 に 能力  
 第二是本事 (一/一 10a2)
- 1-12-6 *tušan i dorgi i<sup>57</sup> baita be.*  
 職務 の 中 の 事 を  
 把任内の事 (一/一 10a2)
- 1-12-7 *gūnin girkūfi tacici acambi.*  
 心 専一にし 学ぶ べきだ  
 當專心習學 (一/一 10a3)
- 1-12-8 *ilaci de kicebe.*  
 第三 に 勤勉  
 第三是勤勉 (一/一 10a3)
- 1-12-9 *jabšan be heperere.*  
 便宜 を 貪り  
 不可撿便益<sup>58</sup> (一/一 10a3)
- 1-12-10 *joboro be siltara oci ojarahū.*  
 苦勞 を 拒む こと いけない  
 推辛<sup>59</sup>苦 (一/一 10a4)
- 1-12-11 *unenggi hūsun i faššaci acambi.*  
 本当に 力 で 努力する べきだ  
 須得實力巴結 (一/一 10a4)
- 1-12-12 *dere be aika neneme wajici.*  
 顔 を もしも 先に 失くせば  
 若先把臉沒<sup>60</sup>了 (一/一 10a4-5)
- 1-12-13 *gicuke manggi.*  
 恥じた 後で

---

<sup>57</sup> i : 刊本・辛卯本はこの一語を欠く。

<sup>58</sup> 益 : 辛卯本は「宜」に作る。

<sup>59</sup> 辛 : 辛卯本は「幸」に作る。

<sup>60</sup> 沒 : 辛卯本は「丟」に作る。

羞搭と的 (一/一 10a5)

1-12-14 adarame gurun<sup>61</sup> de tuwabumbi.

どの様に 国 に 見られる

怎樣對衆人呢 (一/一 10a5)

1-12-15 uthai yamun i dorgi gucu hafasai emgi.

たとえ 役所 の 中で 友達 役人達と 共に

就是衙門裡<sup>62</sup>與同寅 (一/一 10a5-10b1)

1-12-16 oforo yasa emu bade fumerere de.

鼻 眼 一つ 所で 入り乱れ ても

鼻子眼睛在一塊兒混着 (一/一 10b1)

1-12-17 inu gaitai gaitai dere sorocombikai..

また 忽ち 忽ち 顔 恥じ入るぞ

也一會兒とと的<sup>63</sup>臉上發熱呀<sup>64</sup> (一/一 10b2)

1-13-1 sakdasa<sup>65</sup> muse be jusei fonci hūwašabume ujire de.

老人達 我々 を 子供の 時から 育て 養う 時

老家兒<sup>66</sup>們從小兒撫養咱們的時候 (一/一 10b3)

1-13-2 antaka oori simen be wacihiyaha.

どれほど 精 神 を 費やした

何等的費盡精神 (一/一 10b3-4)

1-13-3 nimere yangšarara de.

病み むずかる 時

病痛時 (一/一 10b4)

1-13-4 antaka niyaman i senggi be olhobuha.

どれほど 心臓 の 血 を 乾かせた

何等的耗干心血 (一/一 10b4-5)

1-13-5 tere fonde. aika ergen haji.

その 時に まさか 生命 愛しい

那個時候難道還有心要惜命 (一/一 10b5)

<sup>61</sup> gurun : 刊本は geren に作る。

<sup>62</sup> 裡 : 辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>63</sup> 的 : 辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>64</sup> 呀 : 辛卯本は「啊」に作る。

<sup>65</sup> sakdasa : 辛卯本は sakdase に作る。

<sup>66</sup> 兒 : 刊本・辛卯本はこの一字を欠く。

- 1-13-6 mujilen hūsun be hairame funcebume asaraki sehe gūnin majige bihena<sup>67</sup>.  
心 力 を 惜しみ 余らせて 蓄えよう と思った 心 少し あったか  
省着心力息養身子来着麼 (一/一 10b5-11a1)
- 1-13-7 akūkai<sup>68</sup>.  
ないぞ  
並沒有啊 (一/一 11a1)
- 1-13-8 muse udu hiyoošulara doro be hon ulhirakū bicibe.  
我々 いかに 孝行する 道理 を あまり 悟っていない としても  
咱們雖不大懂的<sup>69</sup>孝道 (一/一 11a1-2)
- 1-13-9 toodame karulara hing sere gūnin be muterei teile akūmburakū oci.  
還し 報いる 一心 の 心 を 力 一杯 尽くさない ならば  
報答の誠心若不竭力盡到了 (一/一 11a2-3)
- 1-13-10 dolo tebcimbio.  
心中 耐えられるか  
心裡忍得麼 (一/一 11a3)
- 1-13-11 abka inu ainahai ojoro..  
天 も どの様に できる  
老天也未必肯依 (一/一 11a3-4)
- 1-14-1 yaha dambaku<sup>70</sup>. oforo dambaku<sup>71</sup>. nure niyaniiyun i jergi jaka be.  
炭火 煙草 鼻 煙草 黄酒 檳榔 の 類の 物 を  
漢烟鼻烟酒檳榔等物 (一/一 11a5)
- 1-14-2 musei juse de ume tacibure.  
我々の 子供 に 決して 学ばせるな  
別教咱們的孩子們學 (一/一 11a5-11b1)
- 1-14-3 dambaku<sup>72</sup> gocika.  
煙草 吸った  
喫烟 (一/一 11b1)

<sup>67</sup> bihena : 刊本は biheo に作る。

<sup>68</sup> akūkai : 刊本は akū kai に分綴する。

<sup>69</sup> 的 : 辛卯本は「得」に作る。

<sup>70</sup> dambaku : 刊本・辛卯本は dambagu に作る。

<sup>71</sup> dambaku : 刊本・辛卯本は dambagu に作る。

<sup>72</sup> dambaku : 刊本・辛卯本は dambagu に作る。

- 1-14-4 nure omiha seme.  
 黄酒 飲んだ としても  
 喝酒 (一/一 11b1)
- 1-14-5 omingga jemengge de dangnaci ojarahū bime.  
 飲み物 食べ物 に 代えること できずに いて  
 當不得飲食 (一/一 11b2)
- 1-14-6 hacin hacin de gemu koro bahara babi.  
 種 々 に みな 痛恨 得る 所がある  
 而且様々都有傷處 (一/一 11b2-3)
- 1-14-7 dekdeni gisun. ajigan ci hūwašabuha de<sup>73</sup>. abka i<sup>74</sup> banin i adali.  
 こと わざ 幼少 から 養った 時 天 の 性 の 様  
 常言説少成若天性 (一/一 11b3-4)
- 1-14-8 tacime ilimbaha de<sup>75</sup>. ini cisui oho adali sehebi.  
 習って 慣れた 時 自然に なった 様 と言っている  
 習慣成自然 (一/一 11b4)
- 1-14-9 te tacime dubifi. mutuha manggi. teni targa hala seci.  
 今 習って 親しみ 成長した 後で やっと 戒めよ 改めよ と言っても  
 如今學慣了趕長大了纔教他板着改着 (一/一 11b4-5)
- 1-14-10 mangga kai.  
 難しい ぞ  
 可難了啊 (一/一 11b5)
- 1-14-11 tere anggala. unenggi imbe juse niyalma.  
 その 上 本当に 彼を あの 子供  
 況且要説他是個孩子家 (一/一 11b5-12a1)
- 1-14-12 baita akū de. tookabure efire ton okini seci.  
 事 ない 時 なだめ 遊ぶ 数 になればよい と思えば  
 沒點事兒當個消遣玩藝兒呢<sup>76</sup> (一/一 12a1-2)
- 1-14-13 ere šolo de.  
 この 暇 に  
 趣這個空兒上 (一/一 12a2)

<sup>73</sup> hūwašabuha de : 刊本は hūwašabuhade に合綴する。

<sup>74</sup> abka i : 刊本は abkai に合綴する。

<sup>75</sup> ilimbaha de : 刊本は ilimbahade に合綴する。

<sup>76</sup> 呢 : 辛卯本はこの一字を欠く。

- 1-14-14 ainu inde fusure erire. jabure acabure ibere bederere jusei doro be  
 なぜ 彼に 注ぐ 掃く 応じる 合わせる 進む 退く 子供の 道理 を  
 taciburakū ni.  
 教えない のか  
 為甚麼不教他學洒掃應對進退孩子的道理呢 (一/一 12a2-3)
- 1-14-15 ambakan juse ohode. hiyoošun deocin tondo akdun i baita be.  
 やや大きい 子供 になった時 孝 悌 忠 信 の 事 を  
 大些的孩子們把孝弟忠信的事情 (一/一 12a3-4)
- 1-14-16 inenggidari erde ci yamjitala.  
 毎日 朝 から 晩まで  
 終日從早到晚 (一/一 12a4-5)
- 1-14-17 yabume elerakū kai.  
 行って 足りない ぞ  
 行之不足啊 (一/一 12a5)
- 1-14-18 te ci jusei doroi<sup>77</sup> ildun deri hūwašabume gamaci.  
 今 から 子供の 道理の ついで に 養い 持って行けば  
 打這會兒把作孩子的道理稍帶着調<sup>78</sup>教着去 (一/一 12a5-12b1)
- 1-14-19 ere jergi tulgiyen<sup>79</sup> demun be yarhūdame tacibure ci ai dalji..  
 この 類の 無関係な 振舞い に 導き 教える より まし だ  
 強如教導他這一類的外務呢 (一/一 12b1-2)

## 参考文献

- 王磊・劉雲 (2018) 『庸言知旨』 (早期北京話珍本典籍校釈与研究・早期北京話珍稀文献集成・清代滿漢合璧文献萃編), 北京: 北京大学出版社.
- 太田辰夫 (1951) 「清代北京語語法研究の資料について」, 『神戸外大論叢』 2 (1): 13-30.
- 河内良弘・趙弘 (1985) 「天理図書館蔵滿文書籍目録」, 『ビブリア』 84: 156-184.
- 黄潤華・屈六生 (1991) 『全国滿文図書資料聯合目録』, 北京: 書目文献出版社.
- 宋冰 (2013) 「滿漢合璧《庸言知旨》作者宜興小考」, 『滿語研究』 2013 (2): 44-47.

<sup>77</sup> doroi: 刊本は doro i に分綴する。

<sup>78</sup> 調: 辛卯本はこの一字を欠く。

<sup>79</sup> tulgiyen: 辛卯本はこの後に i を有する。

寺村政男（1994）「清代北京語資料彙集・“庸言知旨”（その１）」、『外国語学会誌』23.

寺村政男（2009-2012）『『満漢合璧庸言知旨』の研究（その１～４）」、『水門』21：47-59；22：76-90；23：23-35；24：28-41.

渡部薫太郎（1932）『増訂満洲語圖書目録』，大阪：大阪東洋學會.

Möllendorff, P. G. von (1892) *A Manchu Grammar, with Analyzed Text*, Shanghai: American Presbyterian Mission Press.

Keywords: 満洲語 北京語 清代 庸言知旨 満漢合璧